

報道関係各位

平成 27 年 1 月 13 日

集広舎

**撮影不可能と言われた炭鉱坑内の写真を集めた
写真展「筑豊・最後の坑夫たち」を福岡市美術館で開催！
1月14日(水)から18日(日)まで**

明治に始まる産業革命を担い、戦後の高度経済成長を支えた筑豊地方の炭鉱・山野炭鉱。エネルギー革命により炭鉱がその役割を終えようとしていた昭和48年(1973年)、3人のアマチュアカメラマンが地下527メートルの炭鉱坑内に入ることを許されます。それから約40年。決して日の目を見ることの無かった坑夫たちの実像が現代に蘇ることとなりました。

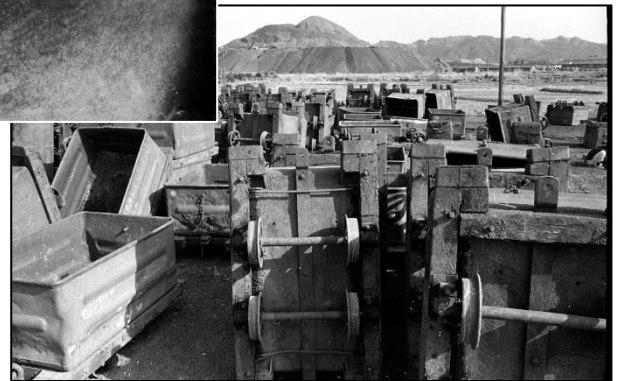
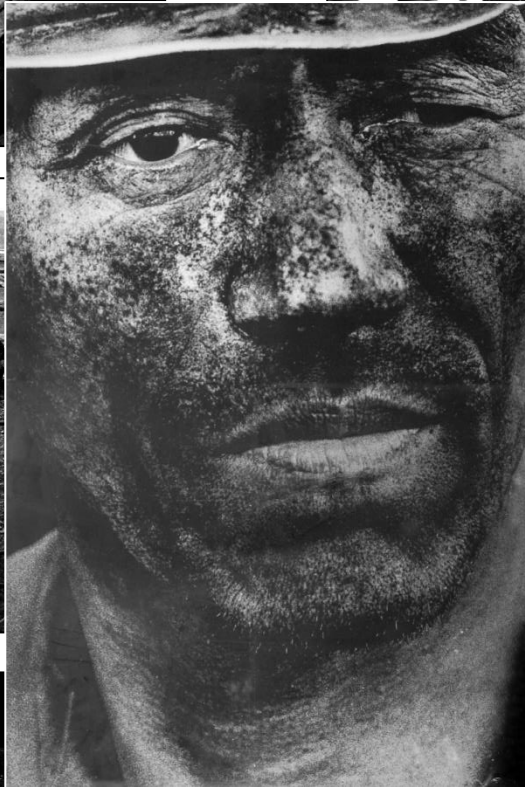
■写真展「筑豊・最後の坑夫たち」開催への経緯

1973年(昭和48年)3月19日、福岡県飯塚市の写真愛好クラブ「銀光会」のメンバーだった永吉博義・吉岡安臣・帆足昌平の3名は、**稲築町(現・福岡県嘉麻市)にあった山野炭鉱**の地下坑内に入り、作業現場の状況と坑夫たちの様子をフィルムに収めることが出来ました。

撮影者3名は、ガス探知機を装備した保安員の付き添いで、**地下527メートルの坑内**に入り、キャップランプの明かりだけが頼りの**暗い過酷な世界で働く坑夫の姿**をとらえています。これらの写真は、撮影者の一人である永吉博義氏実家の倉庫に、**35年間保管**されていました。

奇跡的に殆どすべての写真が破損・汚損されずに再発見されました。平成23年、山本作兵衛氏の「炭坑の記録画および記録文書」が、日本で初めて**世界記憶遺産**に登録されるなど、明治の産業革命から戦後の高度経済成長を支えた**炭鉱にスポットが当た**っていますが、坑内は危険であるため**残された写真は非常に少ない**と言われています。

この度、これら貴重な記録である筑豊の**炭鉱坑内写真を収めた写真集が初めて刊行される**ことを契機として、一人でも多くの人に**炭鉱の歴史を知っていただく**ため、福岡市美術館にて**無料の写真展**を開催することとなりましたので、ご案内申し上げます。



▲展示写真の一部

■写真展「筑豊・最後の坑夫たち」

日時：2015年1月14日(水)～18日(日)9時半から17時まで

場所：福岡市美術館 市民ギャラリーB(福岡県福岡市中央区大濠公園 1-6)

主催：「写真展筑豊・最後の坑夫たち」実行委員会

お問い合わせ：集広舎(川端幸夫 070-5271-3767／092-271-3767)

■写真集『1973筑豊・最後の抗夫たち』(2015年1月8日発行)集広舎刊

収録:筑豊地域 15 炭鉱(嘉穂郡・田川郡・田川市・嘉麻市・宮若市・飯塚市)約 300 点。

著者:永吉博義(1932 年 11 月生まれ/82 歳)帆足昌平(1946 年 2 月生まれ/68 歳)

B5判変形/上製/160 頁 定価/2,700 円+税

詳細はこちら <http://www.shukousha.com/information/publishing/3819/>



▲写真集『1973筑豊・最後の抗夫たち』(表紙)

■山野炭鉱とは

山野炭鉱(やまのたんこう)は、福岡県嘉穂郡稲築町(現在は合併して嘉麻市)に存在した炭鉱。三井財閥系の筑豊における主力鉱であった。1898 年開山、閉山は 1973 年。

1965 年にはガスによる爆発事故で 237 名が亡くなった。写真では過酷な労働現場で働く抗夫たちの様子を活写している。

■facebook 上に写真集のページを開設し、一部の写真を無料で配信しています。

<https://www.facebook.com/1973LastMiner>

■プレスリリース配信元「集広舎」概要

アジア関連書籍を中心に据えながら、様々なジャンルの自由なパブリッシングを目指して生まれたのが集広舎です。昭和44年に福岡で創業した中国書店(<http://www.cbshop.net/>)を母体になっています。

集広舎/有限会社中国書店 (代表取締役:川端幸夫)

〒812-0035 福岡市博多区中呉服町 5 番 23 号 TEL: 092-271-3767 FAX: 092-272-2946

集広舎公式サイト: <http://www.shukousha.com/>